

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成21年10月13日

【評価実施概要】

事業所番号	2873600510		
法人名	さくらケアサービス株式会社		
事業所名	グループホーム さくら新宮		
所在地	兵庫県たつの市新宮町鯉崎286-1		
	(電話) 0791-76-2323		
評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成21年9月14日	評価確定日	平成21年10月13日

【情報提供票より】(平成21年 8月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成18年 1月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 10人, 非常勤 5人,	常勤換算 12.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨2階建 準耐火構造 造り		
	2階建ての 1 ~ 2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	21,500 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(8月24日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	6	要介護2	7
要介護3	1	要介護4	4
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 82.2 歳	最低 71 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 景珠会 八重垣病院
---------	------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームさくら新宮は、童謡の里、たつの市郊外の豊かな田園地帯に位置し、平成18年1月に開設され、4年目を迎えている。2階建て総タイル張り的高级感あふれるホームには絵画がふんだんに飾られ、いたるところに入居者に暖かい配慮がなされている。浴室は総ヒノキで個浴を楽しむことができ、畳敷きの居室には洗面台、トイレも完備され居心地満点の住居である。基本的人権の尊重、社会的自立の助長、地域福祉への貢献等を運営の方針に掲げ、その内容を具体化した10カ条をケアに活かす方法として、職員は毎日唱和している。看護師が毎日常勤しており、入居者の健康管理も充実している。地域との結びつきも円滑に進んでおり、認知症介護の拠点としてその役割が期待されている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) 内外研修の取組については改善計画をたて実施してきた。鍵をかけないケアの実践の取組み等、課題は多く、引き続き計画的な取組みを痛感していると前向きな姿勢がある。管理者の若い力を発揮してさらなる一歩を期待したい。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:第三者4) 各フロア毎に全職員が参加して取組んだ。業務に追われている現状の中で新たな気づきを得る機会として捉えている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:第三者4,5,6) 運営推進会議はほぼ2ヶ月毎に定例化している。参加メンバーは自治会長、民生委員、家族代表、たつの市老年福祉課職員が出席している。事業所からは事務長他3名が参加し、自治会の公民館で開催している。事務長挨拶、事業報告を適宜行い、たつの市職員からは情勢に応じた情報提供を受け活発な意見交換が行われている。会議の内容は議事録に作成され、メンバー全員が確認し共有できている。地域との結びつきも円滑に進み、民生委員からは認知症介護について学ぶ機会を得ている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 家族との関係強化については、毎月の会計報告、2ヶ月に1回の機関誌「さくら新聞」の発行、3ヶ月に1回、担当者による近況報告等に加え、ケアプラン作成時は必ず訪問してもらい説明している。家族の意見はサービスの質向上につなげる上からも必要不可欠として運営推進会議の参加も引き続き呼びかけると同時に真の声をどう引き出していか議題の一つとして提案している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 月1回、自治会主催の「なごみの会」に招待され参加することを楽しみにしている。その他、自治会の行事には自治会の一員として積極的に参加している。地域のボランティア活動も多彩で事業所との交流の場となっている。運営推進会議も自治会公民館で開催しており、地域に根付いている様子がうかがえる。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	5つの事業所を運営する株式会社としてのものが運営方針としてある。それを具体化した「さくら新宮10か条」が独自に作られている。		基本理念に、18年の改正に準じた地域密着型サービスとしての「地域の中でその人らしく暮らしつづけること」を謳った文章を付け加えられることを検討してもらいたい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	分かり易く文章化された「さくら新宮10か条」を、毎日ミーティングで唱和しながら、日々の実践に活かされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	月1回、自治会主催の「なごみの会」に招待され、参加することを楽しみにしている。その他、自治会の行事には自治会の一員として積極的に参加している。地域のボランティア活動も多彩で事業所との交流の場となっている。運営推進会議も自治会公民館で開催しており地域に根付いている様子がうかがえる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、第三者評価の意義については、職員も理解し全員で自己評価が行われている。前回の第三者評価の結果についてはミーティングで話し合われた。		改善事項の一つである、内外研修の取組みについては改善計画をたて実施してきた。鍵をかけないケアの実践の取組み等、課題は多く引き続き計画的な取組みを痛感していると前向きな姿勢がある。管理者の若い力を発揮してさらなる一歩を期待したい。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議はほぼ2ヶ月毎に定例化している。参加メンバーは自治会長、民生委員、家族代表、たつの市高年福祉課職員が出席している。事業報告等を適宜行い、たつの市職員からは情勢に応じた情報提供を受け活発な意見交換が行われている。会議の内容は議事録に作成され、メンバー全員が確認し共有できている。地域との結びつきも円滑に進み、民生委員からは認知症介護について学ぶ機会として受け止められている。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>相談ごとやお知らせ等があれば、直接窓口に出向き、市町との関係づくりを行っている。グループホーム管理者の集まりにも市の担当者が出席してくれており、相談し易い関係が構築できている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族との関係強化については、毎月の会計報告、2ヶ月に1回の機関誌「さくら新聞」の発行、3ヶ月に1回、担当者による近況報告等に加え、ケアプラン作成時は必ず訪問してもらい説明している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ケアプランの作成時に具体的な要望や意見を伺うようにしている。又、家族の意見はサービスの質向上につなげる上からも必要不可欠として、運営推進会議への参加を呼びかけ、意見を出してもらっている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>各ユニットとも職員を固定化して、馴染みの職員の援助が受けられるようになっている。産休、育休で休職している職員もほぼ復帰されるため、利用者へのダメージは防いでいる。退職者が少ないことが利用者の安心となっている。</p>		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度も2名の職員が認知症実践者研修を受講している。介護士資格取得の際には問題集を提供する等の側面からの応援が行われている。		年間計画書を作成して、計画的に職員育成に取り組まれることを期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回グループホームの集まりがあり、管理者が出席している。困難事例の相談などもでき、その後のケアの参考となっている。又、入居者や職員も交えて合同での催しが出来ればとの話がでている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が安心できるよう、説明や見学してもらっている。4泊5日の体験入所から契約に至ったケースが過去にある。入所後は本人の不安な気持ちを汲み、頻回の面会を勧めたり、趣味を勧めたりの配慮がある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として尊敬し、掃除、洗濯、調理、園芸等の日常生活で力を発揮してもらっている。「私のやることも置いておいて下さい」と利用者からも意欲的に声をかけてもらっている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>言葉の少ない認知症の利用者が、かすかに言葉にされることを聞き逃さず、その言葉から一緒に歌を唄うなどして、その後のケアに活かされている。険悪な利用者の関係を耳にすることもあり、対応に苦慮することもある。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>サービス担当者会議が月1回開催され、利用者や家族の意見を聞き、利用者本位の介護計画が作成されている。作成後は家族に必ず訪問してもらい説明している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>半年に1回、現状に即しての介護計画の見直しが行われている。状態の変化があればミーティングで都度話し合いを行っている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>看護師の常駐により、医療連携体制がとられている。利用者の通院は看護師が担っており、利用者と家族の大きな安心となっている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の関係から遠方の病院への定期受診を行っている利用者を除いては、入所時に利用者と家族の了解と、かかりつけ医の紹介状を得て、ホームの協力病院へのスムーズな移行が行われている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の際に、重要事項の説明と共に重度化した場合の取り決めについての説明を行い、家族との取り交わしが行われている。現時点では看取りの事例はなかった。		終末期については避けられないことであるため、早い段階で本人の意思や家族の真意を聞き、具体化しておくことを勧めたい。状態の段階に応じて、繰り返し確認しておくことが大事である。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ケース記録等の書類は鍵の掛かる書庫で保管するなど個人情報の取り扱いに配慮している。又、職員もケアの場面でのプライバシーの確保を周知している。入浴においては、完全な個浴対応が行われている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で新聞を読まれる人、テレビを見られる人、食堂で仲間同士で過ごされる人と、一人ひとりのペースで過ごせるよう支援している。ゆったり思い思いの生活が伺えた。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食、昼食、夕食とも利用者と共に支度、片付けが行われている。当日も、それぞれ利用者はもやしの根切りをされたり、「自分が食べたものは自分で洗わないと」と笑顔で洗いをされておられた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月、火、木、金曜日と週4日、檜風呂での入浴が行われている。着替えから入浴まで個浴対応が行われている。概ね、利用者は入浴を楽しみにされ、1番を希望されるが偏らないような配慮がされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	女性利用者においては、洗濯、料理、掃除と役割を担ってもらっている。居室の掃除機かけ、廊下のモップかけが行われ、力の発揮できる場面がある。男性入居者においては、居室で野球観戦等が楽しみとなっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月に2～3回の頻度で行事企画書に沿って外出等が行われている。季節ごとに、花園へのドライブやいちご狩りが行われていた。散歩や買い物も希望にそって行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	不審者の防止や安全面での家族の意見を聞きながら鍵をかけているが、掃除の時間、散歩では空気の入替えを目的として、鍵をかけていない。		入居者にとって、鍵をかけることによる弊害の意味を今一度話し合い、安全・安心な暮らしに向けた工夫を期待したい。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	消防職員の指導のもと、消火訓練、通報訓練、避難訓練が行われている。防火管理自主点検表に沿って毎日点検も行われ、万一来に備えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	一人ひとりの状態を把握して支援している。食事の摂取量やバイタルが記録されている。水分確保も十分に摂れる支援が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	外観はタイル張りの近代的な2階建てとなっているが、内装は木を使った準和風となっており、居心地良い造りとなっている。掃除の行き届いた居間と廊下、入居者にも使いがっの良いキッチン、居室前のベンチや手摺と入居者にはやさしい造りとなっている。		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	全ての居室は畳部屋となっており、ほっと落ち着けるものである。身体状況により、ベットか布団かの選択ができています。それぞれにテレビ、馴染みの使い慣れたたんす、家族の写真が飾られ、居心地良い配慮がされている。ベランダでは趣味の鉢植えを育てている入居者もおられる。		

 は、重点項目。